

## 令和7（2025）年度事業活動報告

### 1. 概況

- 1) 法人設立10周年を経過した。
- 2) ここ6年間、針葉樹伐採跡の植林放棄地2箇所の水源の森再生活動（広葉樹植栽）と、里山の放任竹林伐採整備・跡地広葉樹植栽活動2箇所の森づくり事業に力を注ぎ、成果をあげた。
- 3) 結果、静岡県知事から6年連続して【静岡の森づくり貢献証】最高位マスタータイプを受証し、静岡市を代表する森づくり団体に認定された。
- 4) 活動拠点5箇所（市内4箇所：川合山、有度山、貝伏山、大平見）・川根本町1箇所：尾呂久保水川）、年間延動員数384人（作業回数118回）で森の再生を含む森づくり活動を展開した。
- 5) 森の再生活動：すべての活動は助成金によるものであり、森の再生を含む森づくりは軌道に乗ったものと判断される。
- 6) 作業手当：現状、静岡県の外郭団体公益財団法人「ふじのくに未来財団」以外の財団助成金は作業手当を認可しないので、事業規模の大きなプロジェクトは受難い事情がある。それゆえに、現行の我々の予算規模では、事業拡大ではなく、事業継続を主体に考慮せざるを得ないと判断している。自己資金対応額約50万円。
- 7) 世代交代の時期にあるが、諸般の事情から難しい問題だと認識。
- 8) 寄付金：新年度に個人寄付50万円と清算終了NPO法人西域生態系保全フォーラムから約82万円の合計132万円の寄付を受ける予定である。

### 2. 助成事業報告

- 1) 静岡市放任竹林整備事業補助（現物支給）  
5月に環境局環境共生課に提出した放任竹林整備事業用消耗品支給申請書に基づき、川合山、県有地有度山北麓里山林再生ゾーンでの活動に必要な現物支給を6月下旬に受けた。  
竹専用鋸替刃24枚、混合ガソリン4L缶6個、植樹用鍬1本。
- 2) 静岡県外郭団体公益財団法人グリーンバンク助成金  
毎年定例の「森づくりグループ活動支援事業」助成金25万円を受給。  
対象地：川合山。放任竹林の山を広葉樹の森へ再生する活動である。地主と土地使用協定書を締結して実施。放任竹林約330㎡



伐採風景

(100坪)を伐採整備し、跡地に静岡市の潜在植生樹である常緑広葉樹(檜類、タブノキ、スタジイ等)を主体に落葉広葉樹(コナラ、くぬぎ、山栗等)を混植した。天候不順のため11月7、8、9日に渡り、植樹活動を展開し、ポット苗200本(常緑広葉樹4種類)、根巻き苗2m物10本(2種類)、植林苗320本(3種類)、合計530本植栽。助成金は苗木の購入代金に当てた。

- 3) イオン環境財団第34回活動助成による、川根本町尾呂久保水川の水源の森再生活動、助成金109万円。



尾呂久保水川植樹風景

大井川森林組合管内の植林放棄地を調査したところ針葉樹伐採後放置されている水源の森が判明し、地主・森林組合・我々3者契約を締結して実施した。比較的丁寧に伐採されていたので地拵に、貝伏山のような時間と労力を要しなかった。

水源水川源頭、標高750m付近の植林放棄地0.22ha。

鹿、カモシカの生息地なので防護ネットを張り、その中に地域植生樹1140本を植栽した。ポット苗4種類(740本)、植林苗4種類(コナラ、紅葉、イタヤ楓、山栗)400本。以後、順調に育っている。イオン環境財団へ報告済み。

- 4) 三菱UFJ環境財団苗木寄贈助成30万円(毎年受給)、静岡県の担当部署からの連絡で実施している。

場所：県有地有度山北麓里山林再生ゾーン(谷田地区)放任竹林伐採整備地の第3次植樹計画である1500㎡。

苗：3種類(ポット苗、根巻き苗、植林苗)612本。

ポット苗(タブノキ、スタジイ、白檜、赤檜、モチノキ、藪椿各75本)、根巻き苗(檜、イロハ紅葉、白檜各4本)、植林苗(コナラ、クヌギ、山桜各50本)、計774本。

要員：30人、(株)パソナの社員の協力



日時：2024年6月1日  
(梅雨直前の植樹を意図)

#### 5) 公益財団法人ふじのくに未来財団助成活動。

タイトル：「静岡里山の健康な広葉樹の森づくり復元促進事業」  
本年度は322,000円しか助成金が集まらなかった由。

対象地：川合山、有度山、貝伏山、尾呂久保水川の森づくりと広範囲な活動。下草刈、蔓伐り、竹林伐採整備、広葉樹植栽、若竹伐り等の多彩な作業内容が含まれる。植樹地が広がるにつれて、作業量も増え、要員も必要になる。これらの地味な作業を怠ると、森づくりは巧くいかない。今年度の作業手当の赤字は6～70万円が予想され、寄付金を充当する予定。

☆川合山：既竹林伐採整備地、3月7、8日にポット苗160本、植林苗360本、根巻き苗15本の合計535本混植。延動員数53人。

☆有度山：イオン環境財団第35回助成活動申請を軍田ヶ谷側の新たな急な斜面の放任竹林帯の伐採整備計画を申請するべく、そのための準備段階として、2025年秋から谷田の頂上から軍田側へ伐採を開始した。2026年3月まで伐採作業を継続して、ほぼ谷底までの伐採に目処が立った。孟宗竹の生育密度が高く、既に数千本の竹林を伐採した。延動員数298人。イオン環境財団第35回助成活動申請は認可され、助成金90万円は既に受領（前受金）した。

☆貝伏山：2025年秋、下草刈に入り、防護ネットが破られているのを発見した。猪、鹿が侵入した形跡があり、植樹苗数十本に被害が出た。ネットを繕い、損傷した苗を補植した。延動員数：13人。

☆尾呂久保水川の植栽は順調に生育を確認。

延動員数20人。

☆ふじのくに未来財団の審査員から、“貴団体はもう十分に実績を積まれたので、次回からは当財団の助成金ではなく、県の事業である「森の力再生事業」等の税金で対処する事業への参画を考えられてはどうか“との示唆を受けた。

我々の取り組んでいる川合山について、色々調べてみるとすんなりとは申請できない条件がありそうなのだが、全く駄目ということもないようなので、来年度は当財団の助成金申請は中止して、「森の力再生事業」への参画を目指して下調べを継続する。

### 3. 独自事業

1) 樹木学研修会：雨天のため中止した。

平地と山地の境に位置する川根本町には、20種類以上の楓があると言われるほど、豊かな樹木の垂直分布が見られる場所である。この地を標高1400mから降りながら、実態観察し、主要な樹木の説明と解説を受ける研修であった。

☆現地研修要領（第2回）

- ①日時：2025年10月23日（木）半日予定
- ②場所：川根本町山犬段 静岡大学演習林内
- ③費用：2000円（法人補助含まず）
- ④講師：静岡大学飯尾教授
- ⑤集合：2025年10月23日 午前9時市役所駐車場、午後3時ごろ 大札山駐車場で解散
- ⑥内容：大学生並みの現地講習会
- ⑦移動：標高1400mの演習林施設から車で降りながら、随時車を止めて樹木の説明を受ける。
- ⑧参加：既に20人程度希望者あり
- ⑨補助：各参加者へ法人が1000円の補助を行う。
- ⑩主催：NPO 法人静岡山の文化交流センター

山犬段への山岳道路が絶えず崩れるので、一般車の通行を市役所の建築課が規制中なので、大学主催という形を取らないと実施が難しい事情があった。

以上